



メダカゆかいではハピリススタッフが自主練習メニューを提案。実施すると自主練習カードにスタンプが押され、貯まるとオリジナルグッズと交換することができる。

ICTの導入による効率化
友志会グループではハード面での革新を進めています。介護の現場においてもICT化による業務効率化が広がりを見せています。
メダカゆかいではタブレット端末の導入により、記録業務を効率化。スタッフの負担軽減のほか、事務作業を短縮して捻出した時間は、残業時間を減らすだけでなく、ご利用者お一人おひとりとじっくり向き合い、心を通わせる大切な時間に充てられています。また、ご利用者の声に耳を傾けることができます。

友志会グループでは、ICT導入による業務の効率化を推進しています。しかし、それは決して「効率化」だけが目的ではありません。生み出した「ゆとり」を、ご利用者との対話へと注ぎ込む。今回は、最新ツールと人の温もりを掛け合わせ、在宅生活を支えるメダカゆかい（境町）の取り組みをご紹介します。

効率化の先にある『安心』 デイケア介護士の取り組み

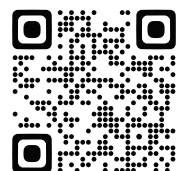


ゆかい通信

第五号 2026年5月



おじやらずによる母の日
パフォーマンスショー！
（イルカゆかい）



バックナンバー

るため、細かなご要望にも迅速に対応し、トイレの照明時間の調整やレクリエーション内容の掲示など、日々の安心やご満足に直結する環境改善へと繋げることができています。

デジタルとアナログの融合

しかし、すべての業務を効率化すれば良いかと言え、決してそうではありません。その代表的事例のひとつが「ご利用前日の電話連絡」です。一見すると非効率なことだと思われがちですが、安心してご利用いただくための重要なコミュニケーションツールだと考えています。

最近では、欠席のご連絡をいただいた際は、その理由を丁寧に伺うよう努めています。受診なのか、あるいはご家族とのお出かけなのか。その背景を詳しく知ること、施設スタッフや担当ケアマネジャーとの情報共有が可能になり、次のご利用時のフォローをより手厚くし、ひいては在宅生活の継続へと繋げていく。一見ICTとは逆行しているアナログな方法ですが、この「一歩踏み込んだ対話」こそが、チームケアの大切な土台となっ

てます。そして、その重要な役割を私たち介護士が担っていると考えています。

学びを現場の力に

お一人おひとりと向き合う時間が増えるほど、「もっとご満足いただけるためにはどうするべきか」という思いが強まります。その答えを求めて、新たに始まった友志会グループ5つのデイケアによる他施設見学に赴いております。担当介護士が丸一日かけて他施設を訪問し、普段気づくことができない、「取り組み」「細やかな接遇」などを学び、自分たちの施設を客観的に見直す貴重な機会としています。

持ち帰った学びは全スタッフへ共有します。こうした積極的な学びの姿勢をチーム全体で共有することで、より高い満足と安心をお届けできる体制を追求し続けてまいります。

談



メダカゆかい 介護主任
鈴木 恵美



ご本人の「やりたいこと」に焦点を当てる

生活行為向上マネジメント

Management Tool for Dairy Life Performance

耕運機使用



除草剤散布



エスカレーター

友志会グループでは、全デイケア施設にて「生活行為向上マネジメント加算」(以下生活行為)を対象者に算定しています。ご病気や身体機能の低下によってできなくなったことであっても、やり方や環境を工夫することによってできることを増やし、ご本人の生活意欲を高めるリハビリテーションです(算定期間…デイケア利用開始後6ヶ月間)。特に退院直後は、「どこまで日常生活が送れるのか」ご家族も不安を感じがちです。



バスの乗車

実際の生活行為内容

- ・畑仕事
- ・洗車
- ・垣根の剪定
- ・スーパーでの買い物
- ・エスカレーターの利用
- ・電車 / バスの乗車
- ・日曜大工
- ・御朱印帳めぐり
- ・セニアカーの利用

そこでご本人の日常生活動作レベルを一番把握しているリハビリスタッフが、生活行為の時間にご自宅等へ伺い、動作を直接確認しながら、ご家族にもご説明させていただきまます。関わる方々と「できること」を共有することで、ご本人もご家族も、自信を持って在宅生活を送ることができると考えています。

生活行為の継続性と地域での可能性について



ご本人の「したい」のために 24 時間 365 日の道筋(生活行為の連続)をイメージし、それをご本人・ご家族・ケアマネジャーと共有していきます